

# インフルエンザの治療について

看護師 森めぐみ

インフルエンザは感染力が強いため、感染初期に適切に治療することが大切です。インフルエンザのウイルスは体の中で急激に増殖するため、抗インフルエンザ薬は症状が出てから 48 時間以内に使用することが重要です。体内のウイルス量が少ない段階で早めに抗インフルエンザ薬を使えば、発熱している期間を短くすることができます。抗インフルエンザ薬は経口薬、吸入薬、点滴、小児用のドライシロップがありますが、年齢や病状に合わせて薬を選択します。そのほか、熱やのどの痛み、咳や鼻水など症状にあわせてお薬を処方します。

タミフルなどの抗インフルエンザ薬で異常行動が生じるのではないかと話がありましたが、現在は薬の副作用ではないと判断されています。高熱により脳に異常をきたし異常行動がみられる場合がありますので、特に子供や未成年者の場合は1人にならないよう配慮していただくことをお願いします。

## 生活上のポイント

- ・ 安静にして十分な睡眠を取りましょう。
- ・ 高熱による脱水予防のために、こまめな水分摂取を行いましょう。
- ・ 食べられるものでかまわないので、少しずつ食べるようにしましょう。

## 解熱剤には注意が必要です！

インフルエンザの場合、自己判断で座薬や解熱剤を使用すると、脳炎や脳症の合併症の頻度が増えてしまうと言われています。

使用可能な解熱剤・・・カロナール、アンヒバ座薬など

注意したい解熱剤・・・バファリン、ボルタレン、ロキソニン、ポンタールなど



ご不明な点はお気軽にご相談ください。